

オンライン授業の存在を前提とした履修前教育の一事例

堤 裕之¹⁾, 坂田 実加²⁾, 藤平 祐司³⁾

1) 大阪体育大学 情報処理センター

2) 大阪体育大学 体育学部

3) 大阪体育大学 教学部

tsutsumi@ouhs.ac.jp

An example of pre-course guidance for online classes

Hiroyuki Tsutsumi¹⁾, Mika Sakata²⁾, Yuji Fujihira³⁾

1) Information Centre, Osaka University of Health and Sport Sciences.

2) School of Health and Sport Sciences, Osaka University of Health and Sport Sciences.

3) Educational Affairs Office, Osaka University of Health and Sport Sciences.

概要

大阪体育大学は大阪南部に位置する体育系の中規模大学であり、入学直後の1年生に対しても必修・選択を問わないさまざまな形式のオンライン授業を実施している。本稿ではこれを可能とするために大阪体育大学において行われている履修前教育について紹介する。

1 はじめに

大阪体育大学は大阪南部に位置する体育系の中規模大学（収容定員数 2580 名）であり、体育学部（定員 2080 名）と教育学部（定員 500 名）が設置されている。このうち特に体育学部では、必修・選択を問わず、さまざまな形式（同時双方向・オンデマンド・ハイフレックス）のオンライン授業が入学直後の1年生のものも含め実施されており、実際、令和5年度前期の実施状況は、体育学部 29 科目（うち1年次配当が12）、教育学部 9 科目（うち1年次配当が2）となっている。^{*1}

しかし、これは一般には実現困難と考えられて然るべきだろう。なぜならば、以下に挙げる条件を満たさなければならないからである。

1. 650 名超（令和5年度は 671 名）の入学生全員が入学直後（令和5年度は入学後 10 日）から混乱なくオンライン授業に参加できなければならない
2. 授業への参加は各人が用意した雑多なメーカー製

の持ち込み PC を用いることを前提としている

3. PC に不慣れな者が大多数である^{*2}
4. サポート人員が限られている^{*3}
5. 導入費用等の観点から一般的なサービス・製品のみを用いなければならない

本稿は以下、上記の条件のもと、入学直後からのオンライン授業を実現するために主に著者を中心として実施した大阪体育大学での取組について概説する。なお、本稿では本取組の特徴的であろうと思われるもの以外の説明は基本的には略すこととする。

2 持込 PC の仕様

2.1 大学統一仕様の策定

持込 PC の仕様は情報処理センター（以下センター）が中心となって実施しているが、学部・学科ごとに仕様を調製することはせず、全学共通である。また、策定する仕様は、学部・学科の要望の公倍数ではなく、公約数的なものを取ることとしている。

^{*1} この数は、シラパス上オンラインと明記されているものであり、実技科目を中心に、基本的には対面実施だが、初回授業のみオンラインとする授業が多数存在する（実技実施場所はグラウンド等であり、実技を伴わない授業回はオンラインの方が実施しやすい等が理由）。実際、体育学部では前期 76 の授業について初回オンラインの申請があり、そのうち 24 が1年次を対象としていた。

^{*2} 実際に入学直後にブラインドタッチができる学生はほぼ皆無である

^{*3} 本件を担う組織として情報処理センターが設置されているが、構成員は、センター長 1 名と事務職員 3 名であり、センター長は体育学部教員、事務職員 3 名は法人施設課との兼務である。

2.2 OS の選定

持込 PC の OS は macOS もしくは Windows 搭載機に限定しているが、さらに macOS 搭載機の持込を強く推奨している。macOS もしくは Windows 搭載機に限定している理由は採用しているサービスが理由であり、macOS を強く推奨している理由はサポートコストの大幅な低減が理由である。

このうち、特徴的なのは、サポートコストの低減のために macOS 搭載機を「強く推奨」していることだと思うが、実際、macOS と Windows 搭載機では、センターに持ち込まれる相談件数の割合、および 1 件あたりの対応時間共に macOS 搭載機の方が大幅に少ない (第 6 節)。

このような差が生まれる原因は、1. アプリの配布形式の違い、2. Microsoft アカウントと OneDrive の仕様から来る問題、3. 学生所有スマートフォンに iOS 搭載機が多い (約 8 割)、4. アドウェアの問題の 4 つだが、本件についての詳細を本稿ではこれ以上述べることはしない。

なお、令和 4 年度入学生の場合、macOS 搭載機は約 8 割、令和 5 年度は販社の広報ミスにより macOS 搭載機が約 5 割、Windows 搭載機が約 5 割を占めた。

2.3 必須導入ソフトウェア

新入生に必ず導入しておくべきソフトウェアとして指定しているものは、1. Microsoft Office、2. Google Chrome、3. 無償の PDF 編集ソフト (Windows 搭載機のみ) である。また、Microsoft Defender 以外のウイルス対策ソフトの導入を控えるよう強く推奨している。

すなわち、大阪体育大学の学生持込 PC は、少なくとも入学時点の段階では、これ以上はないところまで導入ソフトウェアが押さえ込まれており、これにより、大学がこれら持込 PC をサポートするコスト、および学生が初回授業までに行わなければならないことの極小化を図っている。

2.4 仕様の決定

持込 PC の仕様の決定は、次年度の入試がはじまる前に行われ、入学手続き書類と合わせ、早期準備をうながす書類と共に発送している。また、合わせて随時更新される「遠隔授業に備えて準備しておくべきこと」の冊子 PDF (第 5.1 節) を合格手続き者向けの Web サイトに掲載する。

3 オンライン授業用サービスとその活用

3.1 Google Workspace for Education Plus

オンライン授業のために Google Workspace for Education Plus と Microsoft 365 Education A3 の 2 種のサービスを契約しているが、このうち Google Workspace を主として使い、Microsoft 365 は、1) Word, Excel, Powerpoint デスクトップアプリケーションの活用、2) Microsoft Stream によるストリーミングのみを利用推奨としている。必携 PC に Google Chrome を導入必須としているのはこのためである。^{*4}

このため、少なくとも現在のところは、掲示、授業資料の配布は Google Classroom と Google Site、同時双方向の授業や会議は Google Meet、学生呼出は Gmail に一本化されており、さらに授業に関する動画の配信は YouTube か Stream のいずれかである。

実際、学内の情報のほぼ全てがまとめられているポータルページについても、学内の人員だけで書き換えが容易にでき、かつ表示の速い Google Site で作られた非常にシンプルなものとなっており (図 1)、ポータルページにさえアクセスできれば、その目立つ部分にある「授業情報」から初回授業の参加のために必要な URL 等の情報に容易にアクセスできる (これら授業情報の提供のため簡単な Google Apps Script と jQuery を用いた Web アプリを用いている。図 2)。すなわち、学生は Web ブラウザが使える、ポータルページにアクセスできさえすれば、オンライン授業を含む授業情報を手に入れることができる。

なお、Google Workspace の利用は強制ではなく、推奨に過ぎない。しかし、現在のところ YouTube 以外の推奨外のサービスの授業での利用はほぼ見当たらず、活用されるサービスはほぼ一本化されている。さらに、Google Workspace は競合他社のものと比べ画面設計が比較的シンプル (言い方を変えると機能がそれほど多くない) だが、これは、サポートの観点からも、学生の使いこなしの観点からは望ましい特徴である。

3.2 Microsoft 365 Education A3

Microsoft 365 Education A3 の主たる導入理由は、Word, Excel, PowerPoint デスクトップアプリを全学生が制限なく使えるようにすることであり、これは他

^{*4} Stream を推奨としたのは YouTube が広告を完全に排除できないことによる。ただし、Stream の推奨開始は昨年度なかばからであり、いまのところ配信プラットフォームとしては YouTube がまだ主流である。

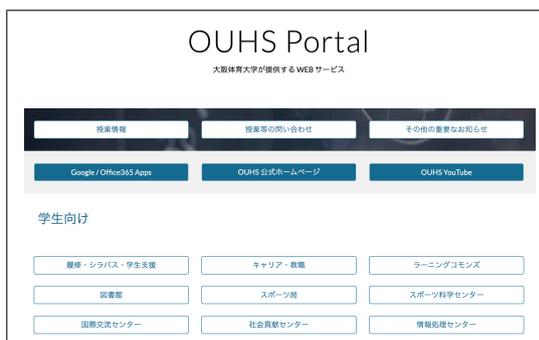


図1 ポータルページ



図2 授業情報ページ

の多くの大学でも同様だろう。しかし、入学時点で、持込 PC に本ライセンスに基づくデスクトップアプリの導入を必須としたこと、また、大学で課す課題等に本ライセンスを適用したデスクトップアプリをほぼ必須としたことは珍しいと思う。ただし、本方針は、入学生全員に授業開始前の非常に短い期間中に、当該ソフトウェアの導入とライセンス認証を完了させなければならぬことを意味しており、もちろんその実現は容易ではない。

しかし、これらソフトウェアの使用頻度が高いこと、そして、特にオンライン授業において、作成された課題等が確かに本人のものであることを確認する手段のひとつとして、これらソフトウェアで作成されるファイルの持つ属性である「概要」情報の活用が企図せざるを得なかったことの2つの理由から、あえて本方針が採用された。

後者については少し説明が必要だろう。これらソフトウェアの「概要」には、Microsoft 365 Education A3 の場合、当該利用者の ID を含む更新日時や編集時間などの情報が記録される。^{*5}

大阪体育大学の場合、この ID は学籍番号を含むメー

^{*5} これは ActiveDirectory 環境でも同様である。ただし、本年度前期の時点ではなぜか Excel のみ概要に利用者 ID が記録されない。Microsoft 社への問い合わせたところ「仕様」と回答されている。

ルアドレスであり、さらに、この情報は VBA を用いることで簡単にリスト化できる（このプログラムは学内で広く共有されている）。また、互換アプリで作成されたものか否かも「概要」情報から確認できることが多い。つまり、この情報を活用することで、ある程度、提出されたファイルが本当に本人により作成されたものかどうかをすばやく確認できるが、これだけですぐに授業等で活用はできる訳ではないことを注意しておこう。これにより分かることは「本人（以外）が課題を作成した可能性が高い」ことだけだからである。第4節で取り上げる履修要項の整備は、この問題に対処するために行われたものである。

4 履修要項

オンライン授業の実質化のために行われた大阪体育大学における履修要項 [1] の整備について、以下その特徴と鍵となるいくつかの条文を紹介する。

本履修要項には、オンライン授業への対応のため、「遠隔授業について」と題された独立した3頁から成る節が設けられている。その中で、授業の実質化を担保するための主な記述は以下の通りである。

- 本学の遠隔授業は入学までに自分で購入した PC と大学の配布する ID 及びパスワードを利用して受講することを基本としています。従って、PC、ID・パスワードの貸し借りは不正行為とみなされ、単位不認定の評価を下されるだけでなく、悪質なものは大学から公式の処分が降ることがあります。
- 各授業資料の配付、学生呼出、レポート等の提出、質問の受付のため、本学では、ID とパスワードで保護された各科目のホームページ、Google Classroom、Google Forms、電子メールが主に使われています。なお、学生呼出等はこのホームページ等に一定期間「掲示」されるのが通常です。掲示を見落とした結果、不利益を被っても基本的に救済はされませんので、見落としがないように注意してください。
- レポート他の提出物の作成に、Microsoft Office 製品群 (Word, Excel, PowerPoint) を用いるよう指示することがあります。この場合は、大学所有の Microsoft Office ライセンスを用いたものを利用してください。
- WEB 会議ツールで授業に参加していれば即出席認定されるわけではありません。授業ごとに出席

認定される条件が異なりますので確認するようにしてください。

なお、この他にも、円滑なオンライン授業が実施を目的とした記述が複数あるが、その詳細については本稿では割愛する。

5 履修前教育

ここまで、大阪体育大学における授業での活用を企図した持込 PC の仕様、オンラインのサービス、規則の整備の概要について解説したが、以下、新入生に対して実際に行われている履修前教育の概要について、令和 5 年度のを時系列で紹介しよう。

5.1 持込 PC 仕様と履修前教育資料の公表

新入生に対してまず最初に行うのは、持込 PC の仕様についての資料の配布と『遠隔授業に備えて準備しておくべきこと』と題された資料の公表である。前者は入学手続き書類に同封して、後者は入学手続き者向けの専用ホームページに掲載する形である。なお、この時点の後者の資料は「暫定版」の扱いであることを注意しておく。

このうち、前者の資料は第 2 節の通りのため、以下、後者の資料の内容についてのみ記す。

本資料は令和 5 年度版で 41 ページあり、以下の節を含んでいる。

1. はじめに

大学では ICT 機器をある程度使えないと授業の受講に支障が生じるが、このために自らの努力しなければならないこと等が記されている。

2. 遠隔授業とは

3. 本準備の位置付け

本資料で案内することは、全新入生が「授業開始までに必ず達成」してほしいことであること。また、これは卒業必修授業の提出必須課題（配点 30 点）として取り扱われること等が記されている。

4. 質問の受付

課題として取り使うことから、大学が代わりに作業を行うことはないこと等が記されている。

5. 3 月 31 日までに終わらせるべきこと

PC と通信手段の確保や初期設定、アップデートの適用等の作業を指示しているが、画面イメージ等を含む詳細な説明は含まれてはいない。

6. 4 月 3 日までに終わらせるべきことと ID・パスワードの取り扱い

4 月 1 日に ID とパスワードが配布されること、そ

の取り扱いについての注意、および確認すべき大学のさまざまなウェブページについて等紹介されている。また、Microsoft 365 のライセンス認証についても記述がある。

7. 4 月 4 日から 8 日にすべきこと

模擬遠隔授業が実施されることと大学 Wi-Fi へのテスト接続について記されている。

8. おわりに

4 月 10 日からはじまる授業についての注意が記されている。

なお、節「おわりに」のあとに、資料として FAQ 等が続く形になっている。

ここでの要点は、本資料で案内する内容が、入学前および入学してから授業がはじまるまでの短い期間に課される、大学の卒業必修授業と連動した、大きな配点がなされる課題とされていることである。ただし、上記資料には、課題扱いとなること、およびその概要と数（令和 5 年度は 6 つ）は記されているが、課題の提出方法等の案内はない（第 5.5 節）。

なお、このあとでも解説するが、新入生は、入学直後から前期授業履修前までの非常に短い期間に全ての課題を達成することが要求される。つまり、本資料で課されている課題は、入学前よりも入学後の方がはるかにこなさなければならないことが多い。つまり、ここで課されている課題は、入学前ではなく、その多くが履修直前に実施されるものである。本節を「履修前教育」と題したのはこれが理由である。

5.2 入学前教育資料（正式版）の送付

3 月のはじめに印刷された上記の履修前教育資料の「正式版」が他の入学時に必要な資料と合わせて送付される。暫定版との差は PC の画面イメージ等が最新のものに更新されていること、および、暫定版でははっきりとしていなかった模擬遠隔授業の日程等が記載されている程度である。

5.3 情報処理センター長からのメールの送付

3 月 31 日に大学情報処理センター長より、新入生に向けて以下の内容へのリンクを含む電子メールが送付される。

- メールを受信確認を含むアンケート
- 模擬遠隔授業の実施案内

前者は Google Form、後者は YouTube 動画である。なお、前者のアンケートに回答することは、本履修前教育で課す課題のひとつ（課題 1）となっていること

を注意しておく。

5.4 ID・パスワードの配布と模擬遠隔授業準備

入学式（令和5年度は4月1日）と合わせて大学ID・パスワードが配布されるが、このID・パスワードにより新入生ははじめて大学のさまざまな情報資源にアクセスが可能になる。

新入生はここから、主に履修前教育資料と第5.3節の資料を参考にしながら、4月3日までに、

1. 大学ポータルページの確認
2. 模擬遠隔授業ホームページの確認
3. Google Classroom アプリへのコードの登録
4. Classroom アプリの内容の確認
5. プレースメントテスト（Webテスト）の受験

を実施する。

なお、4月1日から3日まで大学には本件についての問い合わせ窓口は置かれないことに注意する。また、上の手順は5を除き、大坂体育大学の通常の授業の受講前に行う準備と同じである。つまり、本件は単にオンライン授業だけでなく、通常の授業を含む入学ガイダンスの役割を果たすものとなっている。

5.5 模擬遠隔授業

恐らく、他にはない大阪体育大学の大きな特徴が「模擬遠隔授業」の実施だろう。

本模擬授業はGoogle Meetを用いたWeb会議形式（同時双方向）であり、令和5年度の場合、4月4日に、全新生を15クラスに分け（1クラス約45人）、筆者を含む5人の専任教員が横並びとなり、

- 1時限目：クラス1
- 2時限目：クラス2
- 3時限目：クラス3
- 4時限目：補修

のようにまる1日をこれに割く形で実施されている*6。ここで、補講は1から3時限目に行われた模擬授業への参加に失敗した学生が参加する*7。また、本授業は、参加することそれ自体が本履修前教育の課題扱い（課題2）となっており、学生は基本的に自宅等の遠隔地からの参加を求められる。*8

模擬遠隔授業で案内する内容は冒頭から順に、

*6 本件は担当教員の負担が非常に大きいことから1/3コマ扱いとされ、それに応じた手当等が支給される。

*7 上記以外にも4月5日から7日にかけては毎日、その後も4月中は週に1度補講が実施される。

*8 事情のある一部学生のみ大学での受講が許可されるが、この場合も基本的には教職員からの補助はない。

1. オンライン授業の概要と注意（第4節）
2. 模擬遠隔授業の位置付けの説明（第5.1節）
3. メール受信確認が課題1の位置付けであることの説明（第5.3節）
4. 模擬遠隔授業参加が課題2の位置付けであることの説明
5. 課題3（PC画面の共有）の案内
6. 課題4（Web形式小試験）の案内
7. 課題5（WORD形式ファイル提出）の案内
8. 課題6（大学Wi-Fi接続）の案内
9. PC診断実施の案内
10. 課題3実施

であるが、以下、PC診断実施案内と各課題について説明を加える。

■PC診断実施案内 次の日から大学で予定されている対面での新入生ガイダンスと合わせ、PC診断窓口が開設されること、合わせて、課題について、

1. 前期授業開始までに全課題への合格を求めること（卒業必修授業に配点する条件、第5.1節）
2. 課題の合否が一覧表の形で順次公表されること
3. 次の日の朝までに全課題に合格が出ない場合は、PC診断窓口へのPC持込が必須となる

ことが案内される。

■課題1 課題1は大学からのメールを確認できているかを確認することが目的である。その合否は自動採点され一覧表に反映される。なお、令和5年度の模擬遠隔授業終了時点での課題1の合格率は9割後半であった。

■課題2 課題2はWeb会議システムにより自動生成される出席者リストをもとに、各教員がその合否を一覧表に反映する。なお、令和5年度における課題2の模擬遠隔授業終了時点での合格率は9割後半である。

■課題3 課題3実施の目的は、オンラインで質問受付を行う際、学生がPCの画面を共有できることを前提とした対応をして良いことを保証すること、および、指定された仕様のPCを用いて授業に参加しているかの確認である。

この合否判定は模擬遠隔授業内で行われるが、時間内に合格になるのは令和5年度で6割強である。なお、不合格となる原因は、画面共有に必要なブラウザの権限設定を行えていないことがほとんどを占める。これら不合格の学生には、本件について解説するYouTube動画の視聴と4時限目の補講への参加を命

じること、補講終了時点の本課題の合格は9割を少し切る程度にまで向上した。

なお、課題3は模擬遠隔授業内（補講の場合はその中）で実施されるため、その可否も担当教員が授業内に一覧表に反映する。

■課題4 課題4はGoogle Formで作られた小試験だが、これは単に小試験の受験と提出ができることを目指すものではなく、

1. 小試験結果の確認の仕方
2. 受験後に送付の受験結果メールの確認と取扱い方
3. 提出済みの解答の訂正の仕方

等を学ばせることを目的としている。したがって、本小試験ではあえて間違えた解答を提出し、それを訂正するよう求めており、また、全問正解しなければ合格とはみなされない。

■課題5 課題5は自分の学籍番号をファイル名とした学籍番号のみを記したWORDファイルをGoogle Classroomに提出させることがその内容であり、Microsoft 365 デスクトップアプリが持込PCに導入されているか、大学の所有するライセンスが適用されているか、さらに、当該ライセンスに切り替えて作成されたWORDファイルが提出されているかが確認される。

課題5は、模擬遠隔授業を実施した同日の17:00にいったん締切られ、当日中にセンターでまとめて分析・評価し可否を一覧表に反映させる。なお、合格とならなかった場合は、翌日以降に実施されるPC診断窓口にPCを持参するよう模擬授業内で案内がある。

課題5の合格率は令和5年度の場合、この時点で約6割と、これまでの他の課題と比べ大幅に低い。これは、

1. Microsoft Office が導入できていない
2. 課題作成時に大学の所有するライセンスに Office の設定を切り替えていない

などの原因もあるが、それと同じかそれ以上に、

1. Microsoft Office が何か分からない
2. ファイルが何を指すのかが理解できていない
3. クラウドとローカルが区別できておらず、提出ファイルがどこにあるのかわからない

のような基本的なリテラシーの欠如が原因となっている例が多い。

■課題6 課題6は大学のWi-Fiに持込PCを接続できるかを確認することが目的である。

本課題は、模擬遠隔授業の次の日以降に大学の特定教室にPCを持ち込んで実施する。また、特定教室に来た学生には、係員から、

1. SSID とパスワードを用いてWi-Fiに接続
2. 大学ID とパスワードによる認証
3. 認証後遷移するページからGoogle Formへ移動
4. アンケートに回答

の順に実施するよう指示する。

なお、大学のWi-Fiは認証VLANの仕組みを用い、大学配布のIDとパスワードによる認証を必要としていること、本課題を実施する教室には、PC診断の窓口も置かれること、本課題の結果はアンケートへの回答をトリガとして自動的に一覧表に反映されることを合わせて注意しておく。

5.6 PC診断の実施

本履修前指導の位置付けで最後に実施されるのが第5.5節でも一部その概要を取り上げたPC診断の実施であり、令和5年度の場合、本件は4月5日から7日の前期授業開始直前まで実施した。^{*9}

本稿のここまでの内容から分かる通り、本窓口の設置の主目的は、PCについての一般的な相談を受け付けることではない。模擬遠隔授業の課題になぜ合格していないのかの原因を明らかにし、学生自らが課題を達成するよう補助することである。^{*10}

対応のための人員は令和5年度の場合、4月5日と6日は、センターより、事務職員が1名と技術職員が2名、外部応援SEが2名の計5名、4月7日は来場者が大きく減るため、センター職員3名のみで対応した。

本窓口には、新入生全員が来場し、約6割の学生は、来場時に渡された資料にしたがって、大学Wi-Fi接続課題にのみ取り組み、残り4割の学生は、技術職員、SEによる持込PCの診断を受けてから、大学Wi-Fi接続課題とまだ合格していない課題に取り組む。

持込PCを診断した結果の多くは、ブラウザの権限設定が適切に行われていないことや、Microsoft Officeへの大学所有ライセンス未適用、ファイル保存先がわ

^{*9} 令和5年度は4月8日、9日が土日で授業開始が4月10日である。

^{*10} しかし、現実には、一度行えば良い設定の変更等が原因となっている場合は、この作業を窓口係員が代行している。これは窓口を利用する学生のほぼ全員がPCの操作に不慣れであり、全ての作業を時間内に学生に行わせることが現実的ではないからである

からないことが原因で課題が提出できなかったなどの対応が容易なものだが、中には、OS のアップグレードや PC の初期不良など、長時間の対応を要するものもあり、場合によっては窓口が PC を預かり、対応を進めることもある。

PC 診断の実施により、最終的な新生生の課題達成率は、9 割後半にまで達するが、残り数 % の未達成者の対応については、情報処理センター、学習支援室、教育学部教務担当、情報リテラシー系の授業を担当する教員等が協力しながら、前期授業開始後に個別対応を行う。

6 おわりに

以上が大阪体育大学におけるオンライン授業の存在を前提とした全学な履修前教育の概要である。

その特徴をまとめると、オンライン授業の受講に必要な必要最低限の持込 PC 仕様・導入ソフトウェアの絞り込みを実施したこと、授業の適切性を担保するため履修要項の改訂に踏み込んだこと、そして、卒業必修授業と連携することで、オンライン授業のための入学前教育・入学後の新生ガイダンスを課題化し、強い強制力を持たせたことであろう。以下、これら特色を持つ取組がなぜ行われるようになったかを経緯を交えながら説明しておこう。

■令和 2 年度 大阪体育大学の本取組のきっかけはもちろん新型コロナウイルス感染症への対応を迫られたことである。

大阪体育大学が新型コロナウイルス感染症への対応のため、オンライン授業を開始したのは、令和 2 年 4 月 20 日であり、これはすでに全学展開が完了していた Google Workspace for Education の全面的な活用を前提とする形だった。次年度から PC 必携化に舵を切ることにもまもなく決定されたが、この時点では、Microsoft Office も含めて学生が準備することと定められた。また、一部対面授業の再会も同年 6 月 19 日（体育大学の特性から実技の授業が非常に多いことが理由）とかなりはやく、この時点から授業はオンラインと対面が混在する形となった。

このような環境下ですぐに問題となったことが、大学と学生間のコミュニケーションのあり方である。

対面の授業はもちろん感染対策を万全にして実施せざるを得なかったが、政府等からの要請や受講生に感染者が出るなどのさまざまな理由から、受講生との連絡は密とならざるを得ず、これにより大学から学生へのメールが溢れかえり、必要な連絡を学生が見落とす

問題が頻発した。このため、個人的にどうしても必要な連絡以外は、ホームページや Google Classroom アプリの利用が強く要請され、さらに次年度の新入生も入学直後からこれら複数の経路を用いた連絡が確実に行えるよう計画されることとなった。この計画が本取組の原型である。

■令和 3 年度 令和 3 年度にはじめて行われた取組での履修前指導と現在の取組の履修前指導はほぼ同一である。違いは、1. 持込 PC として Microsoft Office がプリインストールされた Windows 搭載 PC が推奨されたこと、2. 履修要項の改訂にまだ未着手だったこと、3. Microsoft 365 Education A3 の導入については未着手だったことである。では、なぜ、これらの変更を加えることになったのだろうか。

その理由のひとつめは、令和 3 年度の学生の持込 PC の Office ソフトウェアに適切性を欠くものが導入されている例がかなり多かったことである。互換ソフトウェアやブラウザ版の導入のみならばまだ良かったのだが、Office 2007, 2010, 2013 などのサポート期限切れのものや、他機関で契約されている製品などが導入されていることも珍しくはなかった。

理由のふたつめは Windows + Microsoft Office の組み合わせよりも macOS + Microsoft Office の組み合わせの方が問い合わせが圧倒的に少なかつただけでなく、問題解決までにかかる時間も圧倒的に短かつたことに気がついたことである（第 2.2 節）。*11

理由のみつつめは、オンライン授業が本格実施されるようになって 1 年たったことで、授業を適切に運用することに目を向ける余裕が生まれた（向けざるを得なかった）ことである。

当時、学生から提出された課題にコピーの疑いがあり高いものが実際にかなりの数存在し、明確な証拠がないことから、見逃さざるを得ないものも多かったが、この問題は、課題ファイルが誰が編集したものかを特定できれば（完璧には程遠いが）解決する。

これらの問題点は令和 3 年度のなかばには、一部教職員には限られるが、はっきりと認識されており、現在の形の取組を目指し、必要な作業が行われることになった。

■令和 4 年度 必要性の認識はされていたとはいえ、令和 4 年度の取組で改善できたことは、持込 PC の推

*11 実際、令和 3 年度の模擬遠隔授業終了直後の課題達成率は、令和 5 年度にくらべ 30 ポイント近く低く、PC 診断終了直後の達成率も 10 ポイント程度の低い。また、入学前の問い合わせ数も 10 倍以上の違いがある。

奨を macOS にしたこと、および、履修要項の改訂のみに留まった。これは Microsoft 365 Education A3 の導入のため、認証システムにかなり手を入れなければならなかったこと、さらに、毎年のライセンス費用の捻出をどのように行うかなどの検討に時間を要した [3] からである。^{*12}

■令和 5 年度 令和 5 年度 of 取組については第 5 節まで解説した通りだが、ここでは、本取組がもたらしたと考えるべき結果について述べる。^{*13}

まず、そのひとつは、オンライン授業の実施が当然ありえるとの意識が教員・学生双方に間違いなく生じたことである。

第 1 節に記した通り、大阪体育大学では、令和 5 年度もかなりの数の授業がオンライン提供されており、これは次年度もほぼ同様の見込みである。令和 5 年度に入り、対面を基本とする授業に戻っている大学も多いと聞すが、少なくとも大阪体育大学ではいまのところそのような動きはない。

また、大学の特性により、部活動に勤しむ学生は数多いが、試合等で休まざるを得ない対面の授業について、その回のみ of ハイフレックス形式 of 授業の実施を教員に申し出るなどの例も珍しくはなくなっている。また、対面で実施とされている授業でも、一部をオンラインで実施することはいまや全く珍しいことではない。

結果 of ふたつめは学生が PC を利用している姿が学内の至るところで観察されるようになったこと、言い換えると、PC の利用が「あたりまえのこと」と学生の意識も教員の意識も変化したことである。また、合わせて、資料 of 配布が電子的に行われることが完全に一般化したこともあげられるだろう。

実際、大学で印刷される紙資料 of 枚数は、令和元年に比べ令和 4 年度はほぼ 1/10 まで減少しており、さらに、これまで紙冊子として提供されてきた履修要項までもが次年度は Web 掲載に移行が予定されるまでになっている。

最後に、本取組により、支援を必要とする学生を（全てではないにしろ）前期授業開始前という非常に早い

段階で絞り込むことが可能となったことも見逃せない効果である。実際、令和 5 年度 of 履修前指導課題 of 前期授業開始時点 of 未達成者は新入生 of 数 % にまで絞り込まれており、その情報は、関係各部署にその時点で通知、対応を進めていることは第 5.6 節で既に述べた通りである。

参考文献

- [1] 大阪体育大学, 履修要項・学生ガイドブック, 2023.
- [2] 堤裕之, 末田穂乃香, 小寺亮, 紙媒体による運用を前提とした授業文書管理システムの構築とその汎用性, デジタルプラクティス, 第 6 巻, 第 2 号, 112 頁~122 頁, 2016
- [3] 上田浩, 古村隆明, 石井良和, 外村孝一郎, 植木徹, Office365 への移行と認証連携事例の評価, 大学 ICT 推進協議会 2013 年度年次大会公演論文集, w3e-6, 2013

^{*12} ただし、Microsoft 365 Education A3 の導入は令和 4 年 9 月に実施される予定であることは前年度 12 月の段階で公表されていた。また、新入生については、前期授業で Microsoft Office を使う必要がある場合は、3 ヶ月間のみ個人版を契約するよう案内がおこなわれた。なお、令和 5 年度に比べ、令和 4 年度 of 模擬遠隔授業終了直後の課題達成率は 10 ポイント程度低かったが、PC 診断実施後の達成率は数ポイントの違いしかなかった。

^{*13} 本取組前 of 状況については [2] を参照してほしい。